

## はじめに

# 患者の意思を尊重するためのプロセスとしての ACP を真に理解する

荻野美恵子 Ogino Mieko

(国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター教授)

最近いたるところでアドバンス・ケア・プランニング(advance care planning ; ACP)という言葉聞くようになった。比較的新しい言葉であり、「なんとなく理解している」という人も多いのではないか。適切な日本語訳がないままカタカナで表示されていたが、昨年この概念を広げるべく、公募のうえ、日本語の愛称が「人生会議」と決まった。自分の人生について話し合っておく、というニュアンスがこもった愛称である。

在宅では通院ができない障害や疾病を抱えている人に出会う。なかには命にかかわる重度の疾患の人や、認知機能低下をきたして意思確認が難しくなった人もいる。直接十分な検査をできない環境のなかで、病態を判断し予後を予測し、医学的にもどのような選択がよいのかと判断することも難しい分野である。さらに生活を大事にする在宅医療であるからこそ、単なる医学モデルによる決定ではなく、患者の希望を中心とした最善の選択を目指すことになる。本人に意思決定能力がない場合はもちろんのこと、ある場合であっても、何が最善になるのかを見出すためには、患者の人生における意味づけを勘案し、実現可能性をも考慮した患者や家族との話し合いが必要となる。このようなプロセスそのものが ACP であり、在宅医療だからこそ ACP が重要である。

本特集は、とくに在宅分野では避けて通れない ACP を理解し、実践するために必要な知識を整理することを目的とした。ACP と似たような意思決定にまつわる用語の理解、各領域のガイドラインとの関係、ACP を理解するために行われている研修の実際、各領域における ACP を適用する場合の事例紹介、生活・療養・医療の場による ACP の利用の紹介を網羅した内容となっている。

ACP にはメリットもデメリットもある。それらのことをよく理解したうえで、患者の意志を尊重するために活用いただければ幸いである。